

朝日ラバー

(5162・JASDAQスタンダード)

2012年9月13日

13年3月期は通期で計画未達となる可能性も

アップデートレポート

モーニングスター(株)
白石 和弘

主要指標 2012/9/11 現在

株 価	254 円
年初来高値	315 円 (12/06/22)
年初来安値	234 円 (12/01/11)
発行済株式数	4,618,520 株
売買単位	500 株
時価総額	1,173 百万円
予想配当 (会社)	8.00 円
予想EPS (アナリスト)	24.18 円
実績PBR	0.40 倍

直前のレポート発行日

ベーシック 2012/01/26

13年3月期1Qは工業用ゴム事業の回復で営業増益

13年3月期第1四半期の連結業績は、売上高が前年同期比7.2%増の12億1,800万円、営業利益が同77.4%増の4,100万円と、増収・営業増益になった。医療・衛生用ゴム事業が減収・減益となった一方、自動車市場の回復に伴い工業用ゴム事業が好調に推移した結果、全体でも増収・増益を確保した。

ただ、工業用ゴム事業では、卓球ラケット用ラバーの受注が前年同期に好調だった反動から減少。また、医療・衛生用ゴム事業では、プレフィルドシリンジ向けガasketの受注が好調に推移した一方、顧客の在庫調整の影響を受けて採血用・薬液混注用ゴム栓の受注が低迷している。この結果、第1四半期実績は会社側の想定を下回ったとみられるうえ、第2四半期以降の推移についても不透明感がある。

13年3月期通期は下ブレの可能性も

13年3月期通期の連結業績について会社側は、売上高52億円(前期比3.8%増)、営業利益3億円(同23.3%増)と予想。工業用ゴム事業、医療・衛生用ゴム事業の双方で増収を計画している。

しかし、モーニングスターでは、第1四半期実績の状況が会社側の想定より低調だったことや今後の見通しも厳しいことを踏まえ、13年3月期の通期業績は会社計画を下回ると予想。売上高は51億円、営業利益は2億5,000万円と見込んだ。ただ、14年3月期の連結業績については、工業用ゴム事業、医療・衛生用ゴム事業とも回復を見込み、売上高は54億円、営業利益は3億5,000万円と予想している。

業 績 動 向	売上高 百万円	前期比 %	営業利益 百万円	前期比 %	経常利益 百万円	前期比 %	当期純利益 百万円	前期比 %	EPS 円	
2012/03 1Q(4-6月) 実 績	1,137	-4.6	23	-62.6	10	-80.0	20	-42.9	4.44	
2013/03 1Q(4-6月) 実 績	1,218	7.2	41	77.4	24	2.4倍	14	-29.7	3.12	
2012/03 通 期 実 績	5,010	4.2	243	50.5	211	80.1	72	3.3倍	16.01	
2013/03 通 期	新・会社予想 (2012年8月発表) 2012年5月に公表された会社予想から変更なし。									
	旧・会社予想 (2012年5月発表)	5,200	3.8	300	23.3	240	13.5	135	85.3	29.68
	新・アナリスト予想	5,100	1.8	250	2.9	190	-10.0	110	52.8	24.18
	旧・アナリスト予想 (2012年1月発表)	5,320	6.2	280	15.2	175	-17.1	95	31.9	20.88
2014/03 通 期	アナリスト予想	5,400	5.9	350	40.0	300	57.9	200	81.8	43.97

12年3月期通期
は50%超の営業
増益に

● 業績解説

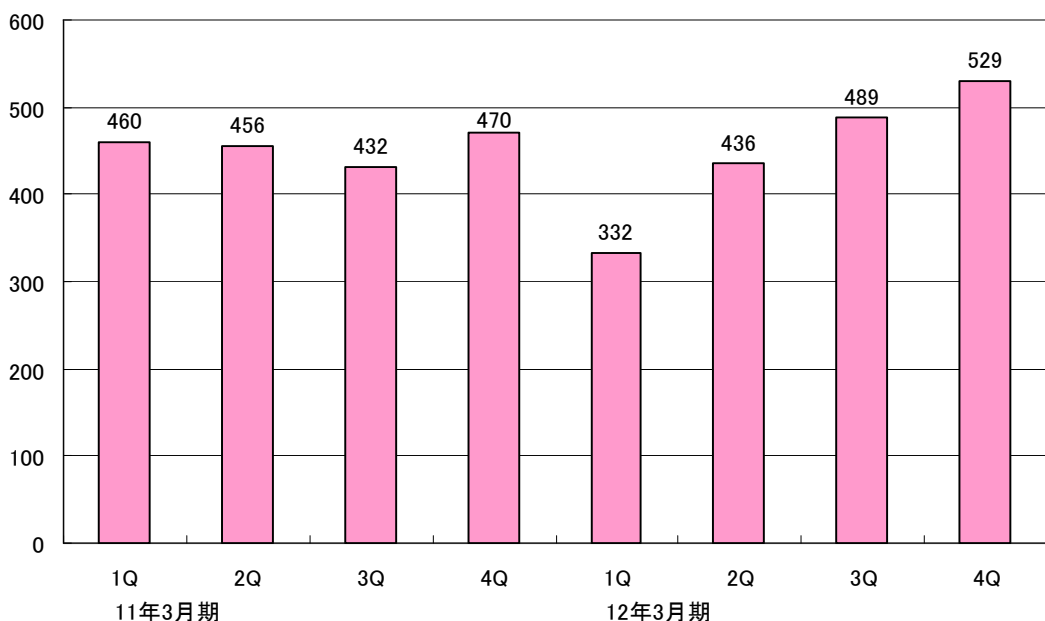
12年3月期通期の連結業績は、売上高50億1,000万円(前年比4.2%増)、営業利益2億4,300万円(同50.5%増)となった。震災やタイの洪水を背景に自動車市場が低迷したことで、主力の工業用ゴム事業が減収・減益になったものの、ディスプレイ用ゴム製品の受注拡大を受けて医療・衛生用ゴム事業が大幅な増収・増益となり、全体の業績をけん引した。

なお会社側は、タイ洪水の影響が想定以下となったことなどから、第2四半期決算時に続き第3四半期決算時にも、売上高、営業利益、経常利益を上方修正していたが、実績は修正予想も上回った。

工業用ゴム事業の業績は、売上高38億1,200万円(同2.2%減)、セグメント利益2億6,300万円(同12.4%減)となった。車載関連の主要製品ASA COLOR LEDの売上高は17億8,800万円(同1.8%減)と微減収。自動車市場が上期に震災の影響を受けたうえ、下期にもタイ洪水の影響を受けた結果、前年実績を下回った。

ただ、ASA COLOR LEDの売上高は、第1四半期が3億3,200万円、第2四半期が4億3,600万円、第3四半期が4億8,900万円、第4四半期が5億2,900万円と、四半期ごとに増加した。震災やタイ洪水の影響が収束に向かい、受注が想定より早い回復を示したことで下期にかけて売上高も回復をみせた。12年3月にはLED関連製品が月次で過去最高の販売数量を記録するなど、年度末での需要増も追い風に年明け以降の受注は特に好調となった。

(百万円) ASA COLOR LED 売上高の四半期推移



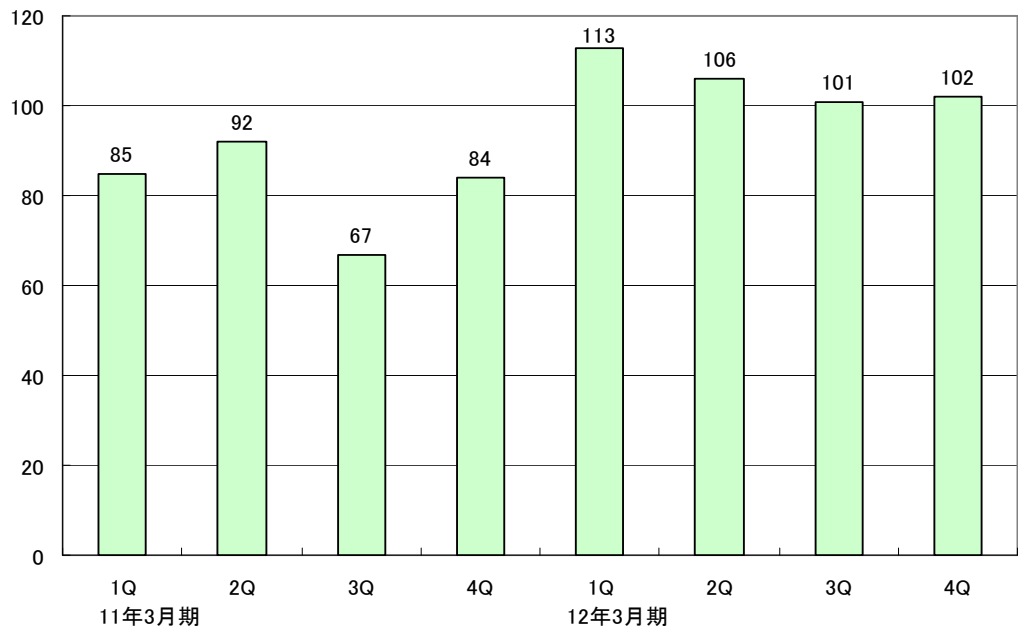
(会社資料よりモーニングスター作成)

業 績

工業用ゴム事業は
下期に回復

一方、スポーツ用ゴム製品（卓球ラケット用ラバー）は、ロンドンオリンピック開催を控えて購買意欲が高まったことなどを背景に、受注が高水準で推移。通期の売上高は4億2,200万円（同28.2%増）と2ケタの増収。四半期ごとの売上高も、第1四半期が1億1,300万円、第2四半期が1億600万円、第3四半期が1億100万円、第4四半期が1億200万円と安定的な推移をみせた。

(百万円) 卓球ラケット用ラバー 売上高の四半期推移

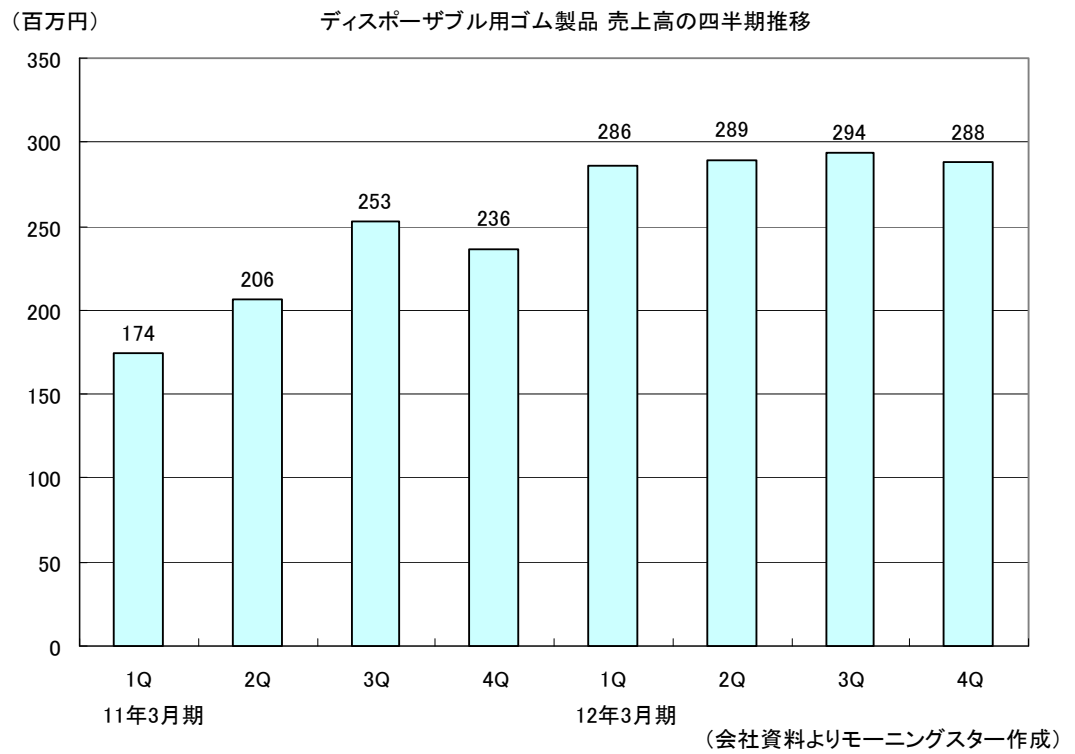


(会社資料よりモーニングスター作成)

医療・衛生用ゴム
事業では受注が
高水準で推移

医療・衛生用ゴム事業の業績は、売上高11億9,800万円（同32.0%増）、セグメント利益2億600万円（同2.1倍）と、売上高、利益とも前年実績を大きく上回った。新規開発品であるプレフィルドシリンジ向けガasketの受注が高水準で推移するなか、10年9月に増築した第二福島工場がフル稼働したことが寄与。また、採血用・薬液混注用ゴム栓の受注も増加し、売上高の伸びにつながった。ディスプレイ用ゴム製品の四半期ごとの売上高は、第1四半期が2億8,600万円、第2四半期が2億8,900万円、第3四半期が2億9,400万円、第4四半期が2億8,800万円と、3億円弱で安定的に推移した。

業 績



業 績

12年3月期1Qは
大幅な営業増益に

● 13年3月期第1四半期について

13年3月期第1四半期の連結業績は、売上高12億1,800万円（前年同期比7.2%増）、営業利益4,100万円（同77.4%増）となった。医療・衛生用ゴム事業が減収・減益となった一方、自動車市場の回復に伴い工業用ゴム事業が好調となった結果、全体でも増収・増益を確保した。

工業用ゴム事業の業績は、売上高9億4,200万円（同13.3%増）、セグメント利益6,600万円（同3.8倍）と増収・増益になった。国内でのエコカー補助金の効果や、新興国での需要拡大、米国市場の回復などにより、自動車関連製品の受注が拡大。主要製品ASA COLOR LEDの売上高は4億6,500万円（同40.1%増）と大幅に増加した。なお、前年に経常赤字となった中国の連結子会社である東莞朝日精密橡膠製品が黒字に転換したことも、利益面でプラスに働いている。

卓球用ラバーの受注は反動から減少

一方、スポーツ用ゴム製品（卓球ラケット用ラバー）の売上高は7,700万円（同31.9%減）と大幅に減少。前年同期に、オリンピック開催前の需要増から販売が伸長していた反動の影響を受けた。また、より価格の安い製品に対するニーズが高まったことで、高品質・高価格な同社製品の販売が伸び悩んだ面もあったようだ。

売上高	12/3期1Q	13/3期1Q	増減額	増減率
ASA COLOR LED	332	465	133	40.1%
卓球ラケット用ラバー	113	77	-36	-31.9%
ディスポーザブル用ゴム製品	286	265	-21	-7.3%

（単位：百万円）

（会社資料とヒアリングをもとにモーニングスター作成）

医療・衛生用ゴム事業は在庫調整の影響を受ける

医療・衛生用ゴム事業は、売上高2億7,600万円（同9.5%減）、セグメント利益3,500万円（同45.3%減）となった。ディスポーザブル用ゴム製品のうち、新規開発品であるプレフィルドシリンジ向けガasketの受注が好調となった一方、顧客の在庫調整の影響により採血用・薬液混注用ゴム栓の受注は減少。前年同期には震災後に取引先企業が在庫を積み増しており、同社の受注も押し上げられていたが、今期第1四半期ではその反動が出たとみられる。第1四半期では、ディスポーザブル用ゴム製品の売上高は2億6,500万円（同7.3%減）にとどまった。

業績

13年3月期は
営業利益3億円の
見通し

● 業績予想について

13年3月期の会社計画は、売上高52億円（前年比3.8%増）、営業利益3億円（同23.3%増）。セグメント別の売上高見通しは、工業用ゴム事業が39億8,900万円（同4.6%増）、医療用ゴム事業が12億1,100万円（同1.1%増）となっている。なお会社側は、第1四半期決算後も期初の見通しを変更していない。

	12年3月期実績	13年3月期見通し	前年比
売上高	5,010	5,200	3.8%
営業利益	243	300	23.3%
経常利益	211	240	13.5%
純利益	72	135	85.3%

(単位:百万円)

(会社資料よりモーニングスター作成)

セグメント別の売上高

	12年3月期実績	13年3月期見通し	前年比
工業用ゴム事業	3,812	3,989	4.6%
医療・衛生用ゴム事業	1,198	1,211	1.1%

(単位:百万円)

(会社資料よりモーニングスター作成)

第2四半期累計の会社計画に対する第1四半期実績（売上高12億1,800万円、営業利益4,100万円）の進ちょく率をみると、売上高で48.5%、営業利益で38.0%とほぼ前期実績（売上高で47.9%、営業利益で39.7%）並みとなっている。一方、13年3月期の会社計画は、上期が売上高25億1,000万円、営業利益1億800万円、下期が売上高26億9,000万円、営業利益1億9,200万円と、売上高、利益とも下期のウェイトが大きい想定で、第3四半期以降の業績動向に注意する必要があるようだ。

第1四半期実績は
会社計画を下回った
可能性も

ただ、第1四半期では、スポーツ用ゴム製品が不振となったことを主因に、工業用ゴム事業の業績は特に利益面で会社側の想定を下回った模様。卓球用ラバーは売上総利益率が高く、利益面への影響が比較的大きいが、前年が好調だった反動から第2四半期以降も低調が予想される。一方、医療・衛生用ゴム事業も、第1四半期の実績は会社側の見込みを下回ったとみられる。同事業では、プレフィルドシリンジ向けガasketの受注が好調に推移しているものの、採血用・薬液混注用ゴム栓の受注は前年の反動から減少。同製品の受注は第2四半期以降も大幅な回復は見込みにくく、医療・衛生用ゴム事業全体で減収が続く可能性がありそうだ。

業 績

モーニングスターでは、第1四半期実績が会社側の想定を下回ったと判断されることに加え、工業用ゴム事業、医療・衛生用ゴム事業の双方で第2四半期以降の業績も低調となる可能性がある点を踏まえ、13年3月期の通期業績について、売上高51億円、営業利益2億5,000万円と予想。売上高、利益とも会社計画を下回ると見込んでいる。

14年3月期は
売上高54億円と
予想

一方、14年3月期の業績についてモーニングスターでは、売上高54億円、営業利益3億5,000万円と予想している。工業用ゴム事業では、卓球用ラバーの販売回復に加え、LED関連製品の伸びを想定。一方、医療・衛生用ゴム事業についても、採血用・薬液混注用ゴム栓の受注回復を主因に増収を見込んだ。

朝日5ハ* - [5162/JQ] 週足 2012/09/13



(出所) 株QUICK

上記チャート図の一部又は全部を、方法の如何を問わず、また、有償・無償に関わらず第三者に配布してはいけません。
 上記チャート図に過誤等がある場合でも株QUICK 社及び大阪証券取引所は一切責任を負いません。
 上記チャート図の複製、改変、第三者への再配布を一切行ってはいけません。

			2010/03	2011/03	2012/03	2013/03 予 (アナリスト)
株 価 推 移	株 価 (年 間 高 値)	円	320	370	310	-
	株 価 (年 間 安 値)	円	229	198	222	-
	月 間 平 均 出 来 高	百 株	185	225	175	-
業 績 推 移	売 上 高	百 万 円	4,667	4,806	5,010	5,100
	営 業 利 益	百 万 円	125	161	243	250
	経 常 利 益	百 万 円	91	117	211	190
	当 期 純 利 益	百 万 円	41	21	72	110
	E P S	円	9.20	4.81	16.01	24.18
	R O E	%	1.5	0.8	2.6	3.8
貸 借 対 照 表 主 要 項 目	流 動 資 産 合 計	百 万 円	3,660	3,803	3,907	-
	固 定 資 産 合 計	百 万 円	3,828	3,874	3,839	-
	資 産 合 計	百 万 円	7,488	7,695	7,758	-
	流 動 負 債 合 計	百 万 円	2,567	2,322	2,438	-
	固 定 負 債 合 計	百 万 円	2,060	2,558	2,459	-
	負 債 合 計	百 万 円	4,627	4,880	4,897	-
	株 主 資 本 合 計	百 万 円	2,856	2,842	2,887	-
キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー 計 算 書 主 要 項 目	純 資 産 合 計	百 万 円	2,860	2,814	2,861	-
	営 業 活 動 に よ る CF	百 万 円	691	422	766	-
	投 資 活 動 に よ る CF	百 万 円	-411	-918	-526	-
	財 務 活 動 に よ る CF	百 万 円	251	615	-305	-
	現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	百 万 円	1,036	1,142	1,073	-

ディスクレーム

1. 本レポートは、株式会社大阪証券取引所（以下「大証」といいます。）が実施する「JASDAQアナリストレポート・プラットフォーム」を利用して作成されたものであり、大証が作成したものではありません。
2. 本レポートは、本レポートの対象となる企業が、その作成費用を支払うことを約束することにより作成されたものであり、その作成費用は、当該企業が大証に支払った金額に大証からの助成金を加えたうえでモーニングスター株式会社（以下「レポート作成会社」といいます。）に支払われています。
3. 本レポートは、大証によるレビューや承認を受けておりません（ただし、大証が文面上から明らかに誤りがある場合や適当でない場合にレポート作成会社に対して指摘を行うことを妨げるものではありません）。
4. レポート作成会社及び担当アナリストには、この資料に記載された企業との間に本レポートに表示される重大な利益相反以外の重大な利益相反の関係はありません。
5. 本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的として作成されたもので、有価証券の取引及びその他の取引の勧誘又は誘引を目的とするものではありません。有価証券の取引には、相場変動その他の要因により、損失が生じるおそれがあります。また、本レポートの対象となる企業は、投資の知識・経験、財産の状況及び投資目的が異なるすべての投資者の方々に、投資対象として、一律に適合するとは限りません。銘柄の選択、投資判断の最終決定は、投資者ご自身の判断でなされるようお願いいたします。
6. 本レポート作成にあたり、レポート作成会社は本レポートの対象となる企業との面会等を通じて、当該企業より情報提供を受けておりますが、本レポートに含まれる仮説や結論は当該企業によるものではなく、レポート作成会社の分析及び評価によるものです。また、本レポートの内容はすべて作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
7. 本レポートは、レポート作成会社が信頼できると判断した情報に基づき記載されていますが、大証及びレポート作成会社は、本レポートの記載内容が真実かつ正確であり、そのうちに重要な事項の記載が欠けていないことやこの資料に記載された企業の発行する有価証券の価値を保証又は承認するものではありません。本レポート及び本レポートに含まれる情報は、いかなる目的で使用される場合におきましても、投資者の判断と責任において使用されるべきものであり、本レポート及び本レポートに含まれる情報の使用による結果について、大証及びレポート作成会社は何ら責任を負うものではありません。
8. 本レポートの著作権は、レポート作成会社に帰属しますが、レポート作成会社は、本レポートの著作権を大証に独占的に利用許諾しております。そのため本レポートの情報について、大証の承諾を得ずに複製、販売、使用、公表及び配布を行うことは法律で禁じられています。

＜指標の説明について＞

本レポートに記載の指標に関する説明は、大阪証券取引所ウェブサイトに掲載されております。

参照 URL ⇒ <http://www.ose.or.jp/jasdaq/5578>